

高校生と大学生のアンチ・ドーピングに関する調査

Survey of awareness about anti-doping in high school and university students

1K09A011-1 安達貴弘

指導教員 主査 赤間高雄 先生 副査 金岡恒治 先生

緒言

競技スポーツの現場ではドーピングを行ったために、制裁を受ける選手が後を絶たない。競技スポーツにおいて勝利することは重要であるが、勝利することだけに執着してしまった結果、安易に能力を高めることができるドーピングに手を出してしまう競技者が出てきてしまう。このドーピング問題を改善していくためには、これからのスポーツを支えていく若年層の競技者に対してアンチ・ドーピングの正しい知識を学んでもらう必要がある。ドーピングに対する意識調査をした先行研究はいくつかあるものの、競技スポーツに取り組む高校生や大学生を対象とした研究は少ない。そこで本研究では、高校生、大学生の競技スポーツに取り組んだ経験のある学生にアンチ・ドーピングに関するアンケートを実施することで、競技スポーツに取り組む若年層のアンチ・ドーピングに対する意識がどの程度あるのかについて調査することを目的とした。

方法

A. 対象

高校生と大学生計 185 名を対象に「アンチ・ドーピングに関する意識調査」を実施した。高校生は、愛知工業大学名電高等学校の生徒 102 名及び、同校所属のウエイトリフティング部部員の 18 名を対象とした。大学生は早稲田大学スポーツ科学部所属の学生 65 名を対象とした。男女比率は男性 151 名 (81.6%)、女性が 34 名 (18.4%) であった。

B. 調査項目

調査項目は、回答者の個人に関する情報、ドーピング検査経験の有無、ドーピングについての考え方、市販品にドーピングの成分が入っていると思うか、アンチ・ドーピングに関する考え方、アンチ・ドーピングについてこれまでに学んだことについて調査した。

結果

アンケート回収率は 100% であった。ドーピング検査の経験について質問した結果、高校生と大学生全体で経験があると回答したのは全体の 1.7% で、98.3% は経験なしと回答した。次にドーピングについてどのように考えるかについて質問した結果、高校生約 96% が否定的で約 4% が肯定的な回答であった。大学生は約 90% が否定的で、大学生は約 10% が肯定的な回答であった。

サプリメントにドーピングの成分が入っていると思うかの質問に対しては、高校生約 60%、大学生約 90% が禁止物質が含まれている可能性があることを正しく理解していた。アンチ・ドーピングに関する考え方について質問した結果、高校生約 90%、大学生は 100% の回答者がアンチ・ドーピングについて学ぶ必要があると回答した。日常生活から注意している高校生は約 30%、大学生は約 35% とどちらも低い結果となった。最後にアンチ・ドーピングを学ぶ機会、周囲への伝達経験の有無について質問した結果、学ぶ機会があったと回答したのは、高校生が 49.2%、大学生が 75.4% となった。周囲への伝達経験の有無は、学ぶ機会があったと回答した高校生のうち 21.6% で、大学生が 33.3% にとどまった。

考察

高校生や大学生の回答者のほとんどが国内レベルの競技者であり、ドーピング検査の経験も少なかった。したがって、競技生活においてドーピングについて意識することが出来ていない現状があると考えられる。競技レベルによってアンチ・ドーピングに対する意識が異なる現状を改善するためには、若年層の競技者に対してのアンチ・ドーピング学習を徹底して行わせる必要があると考えられる。また、高校生と大学生共にドーピングに対する意識は高かった。しかし、高校生ではドーピングに対する意識は高いものの、サプリメントにドーピングの成分が含まれているという認識は低いことが明らかとなった。サプリメントには全体の約 15% の製品に禁止物質が入っているという現状があるため、若年層の競技者への注意喚起がより重要と考えられる。したがって、高校生以前の中学生の段階でアンチ・ドーピング学習に触れさせ、知識の基盤を作り、高校生の段階ではさらに発展させた正確な内容を学ばせる。そして大学生では、アンチ・ドーピングに対する意見を交換できるような、教育に学習段階をつけることが必要と考えられる。

総括

本研究では、高校生と大学生のアンチ・ドーピングに関する意識調査を実施した。若年層の競技者はアンチ・ドーピングに対する意識が高いことが明らかとなった。しかし、競技生活において禁止物質に注意するなどの実際の行動において意識はかなり低かった。したがって、本研究より若年層のアンチ・ドーピング教育の在り方について、今以上に積極的な活動が必要であると考えられる。